

6. 気高海岸

6.1 概要

西端に船磯漁港，東端に河内川が存在する気高海岸は，端部を岬に挟まれたポケットビーチである。

中央付近には浜村川が存在し，昭和 40 年代には河口維持のため導流堤が設置されている。昭和 50 年代には河内川河口西側の海浜には突堤や消波堤施設が設置されている。

昭和 40 年代，船磯漁港防波堤の建設により，波の遮蔽域が形成され，漂砂が波の遮蔽域側へ引っ張り込まれ始め，周辺海岸の侵食傾向が見られ始めた。

6.2 対策実施状況

- ・ 突堤，消波堤施設：昭和 50 年代
- ・ 浜村川導流堤：昭和 40 年代

6.3 評価分析

6.3.1 汀線変化分析

気高海岸（浜村地区）では，平成 4 年 3 月以降，汀線測量を実施している。これらの測量成果より，近年の汀線変化傾向を分析した。

【近年の汀線変化傾向】

<長期変化>

- ・ 平成 16 年～平成 25 年の近年では，±10m 程度の変動幅であり，比較的安定している。
- ・ 平成 26 年及び平成 27 年は，±20m 以上の変動を示し，沿岸方向に堆積，侵食が交互に見られる。（コメント①）

<短期変化>

- ・ 短期的には平成 26 年 3 月～平成 27 年 3 月の期間の変動は大きく，侵食域と堆積域が交互に見られた。（コメント②）



図 6.3.1 浜崖等の状況



図 6.3.2 現地写真（平成 27 年 6 月 25 日撮影）



図 6.3.3 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図

長期的分析（夏季）

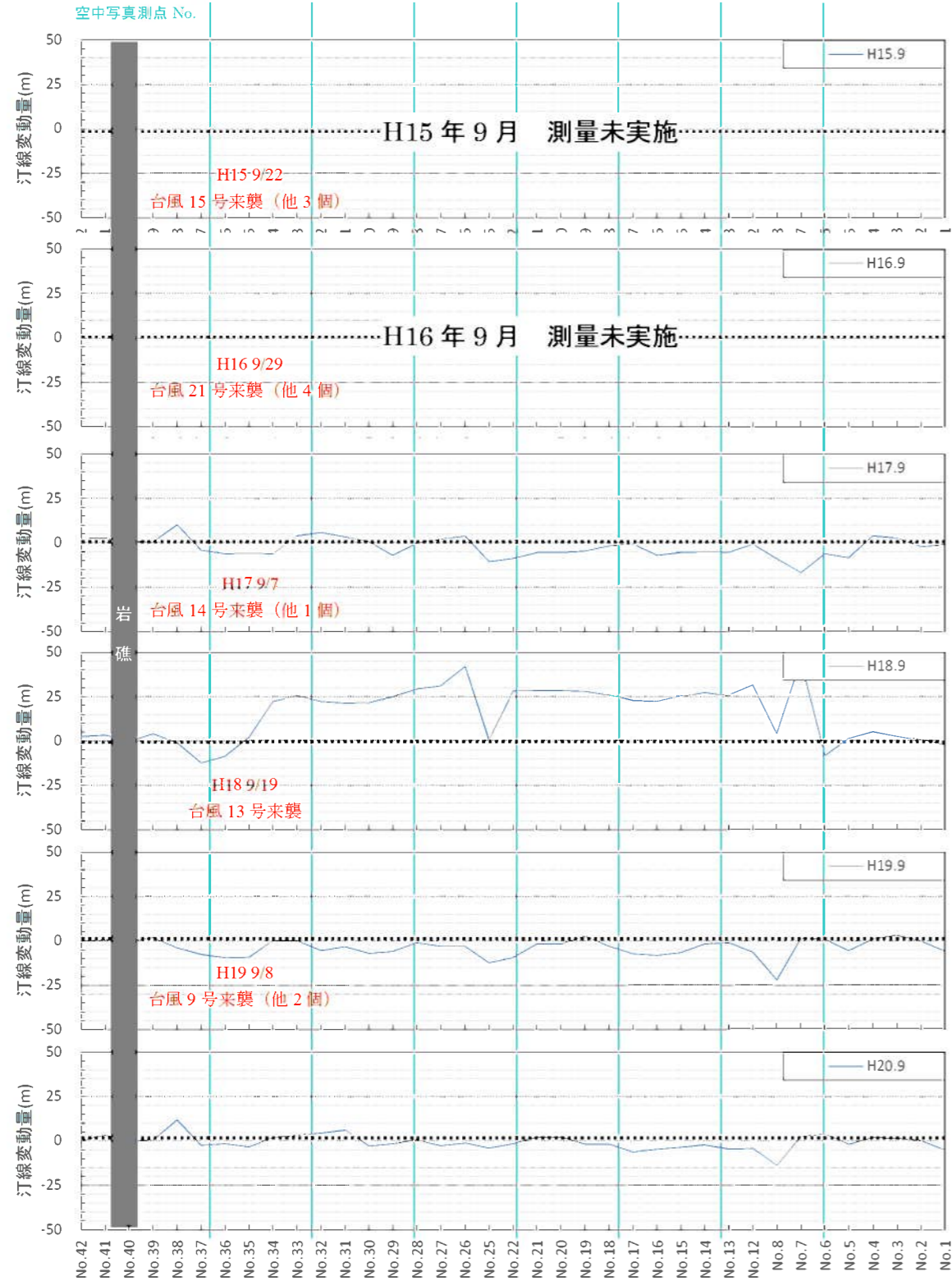


図 6.3.4 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図 : 平成 14 年 9 月基準

長期的分析（冬季）

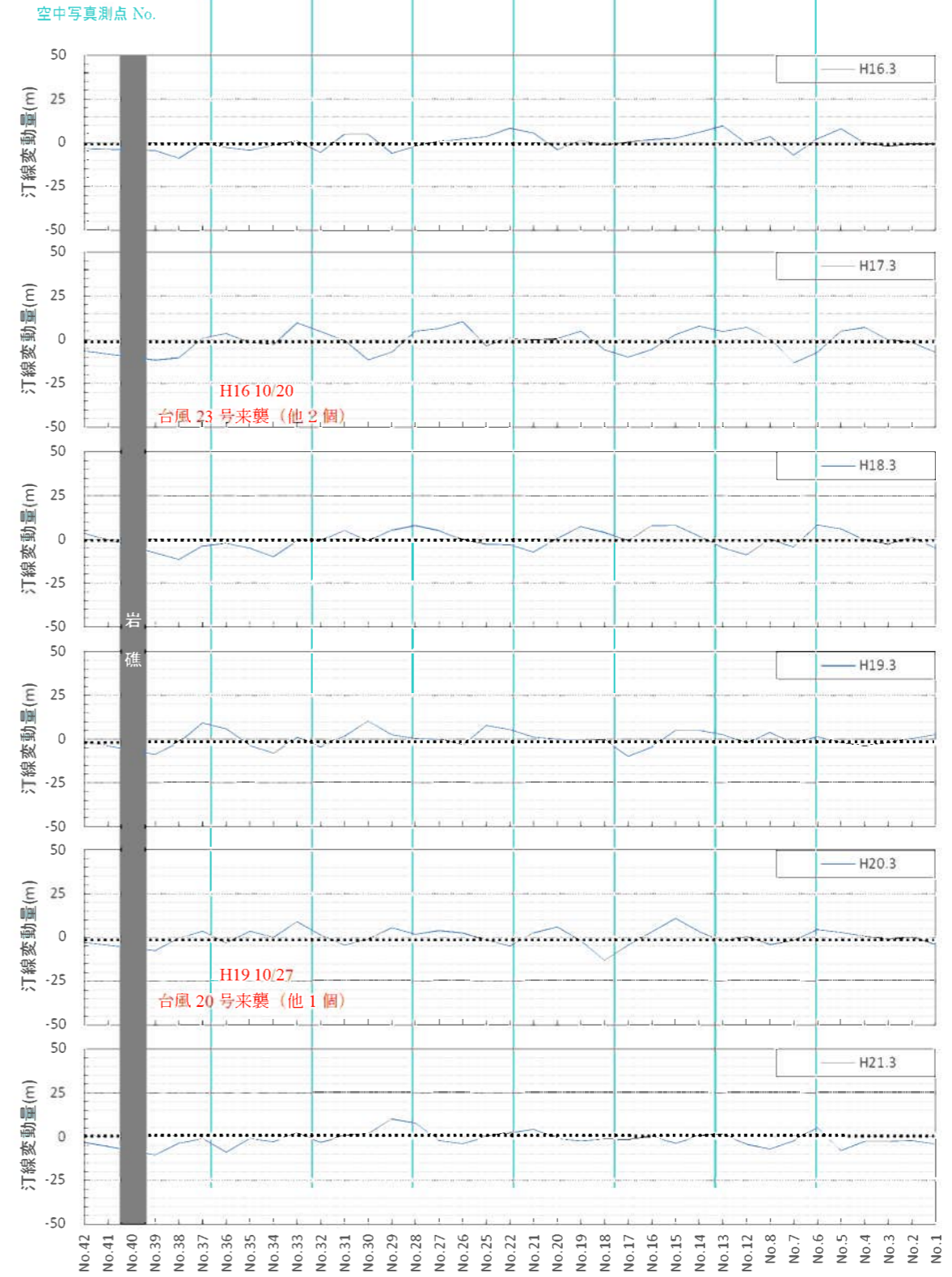


図 6.3.5 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図 : 平成 4 年 3 月基準

長期的分析（夏季）

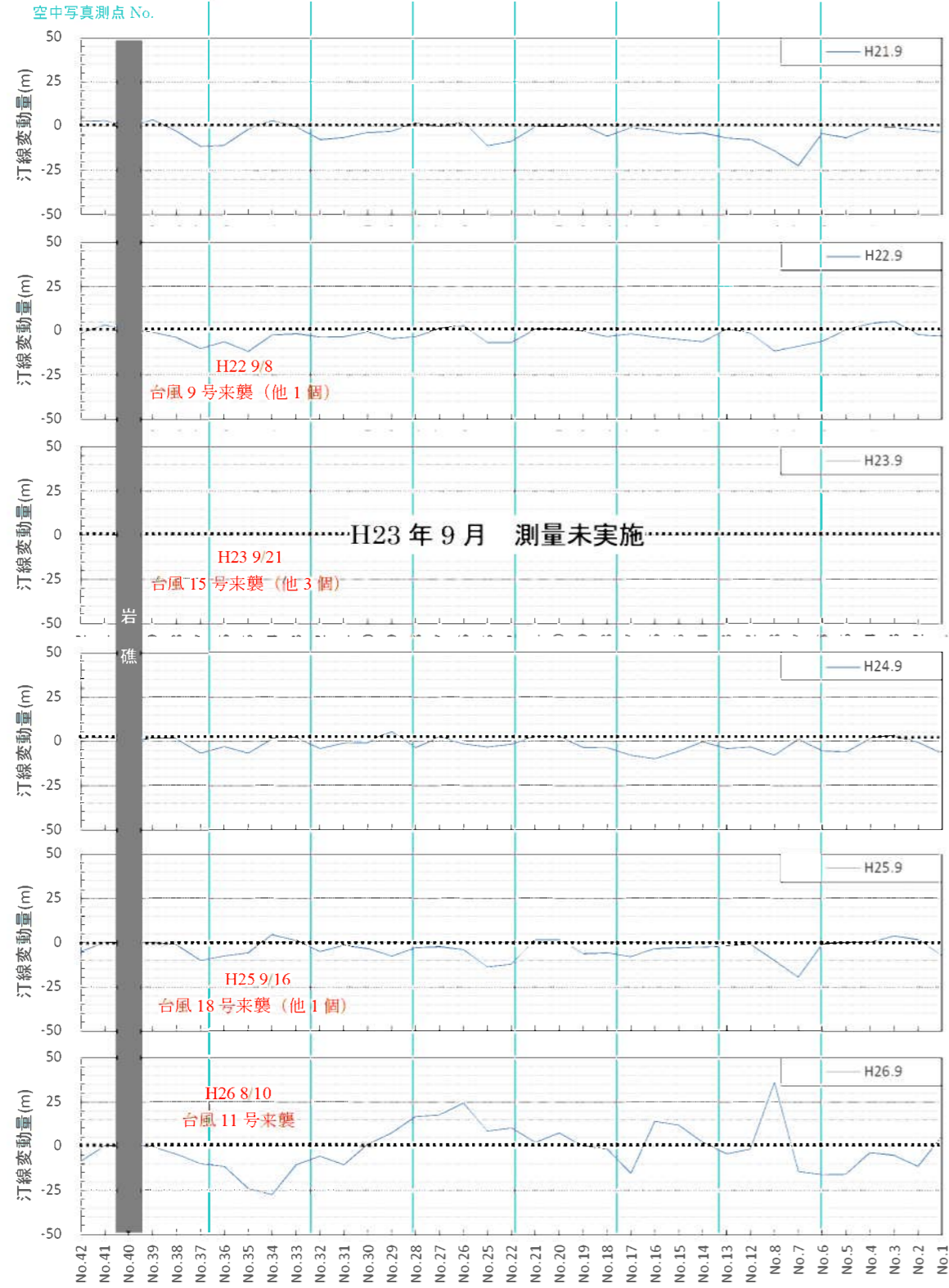


図 6.3.6 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図 : 平成14年9月基準

長期的分析（冬季）

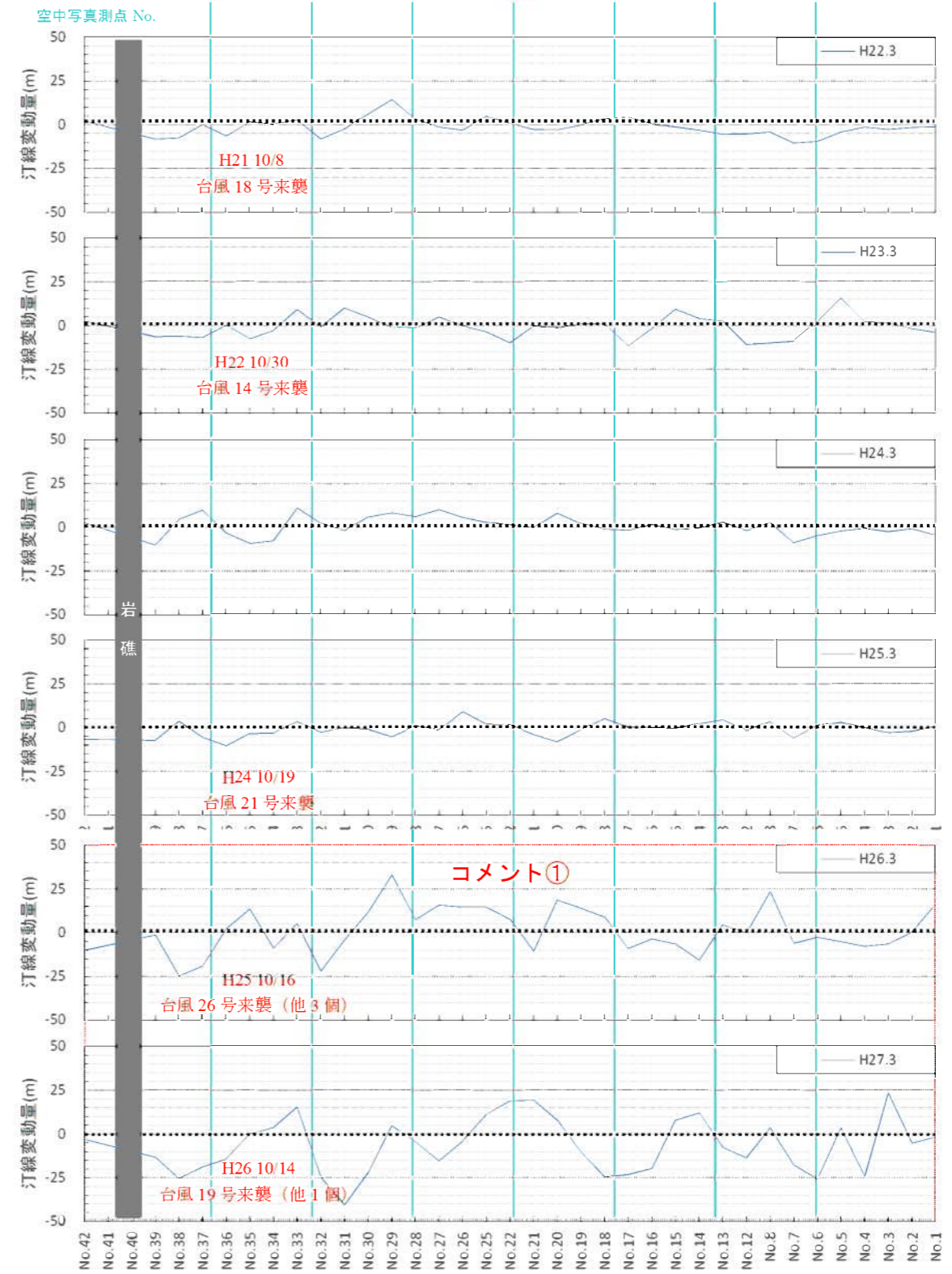


図 6.3.7 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図 : 平成4年3月基準

短期的分析（冬→夏）

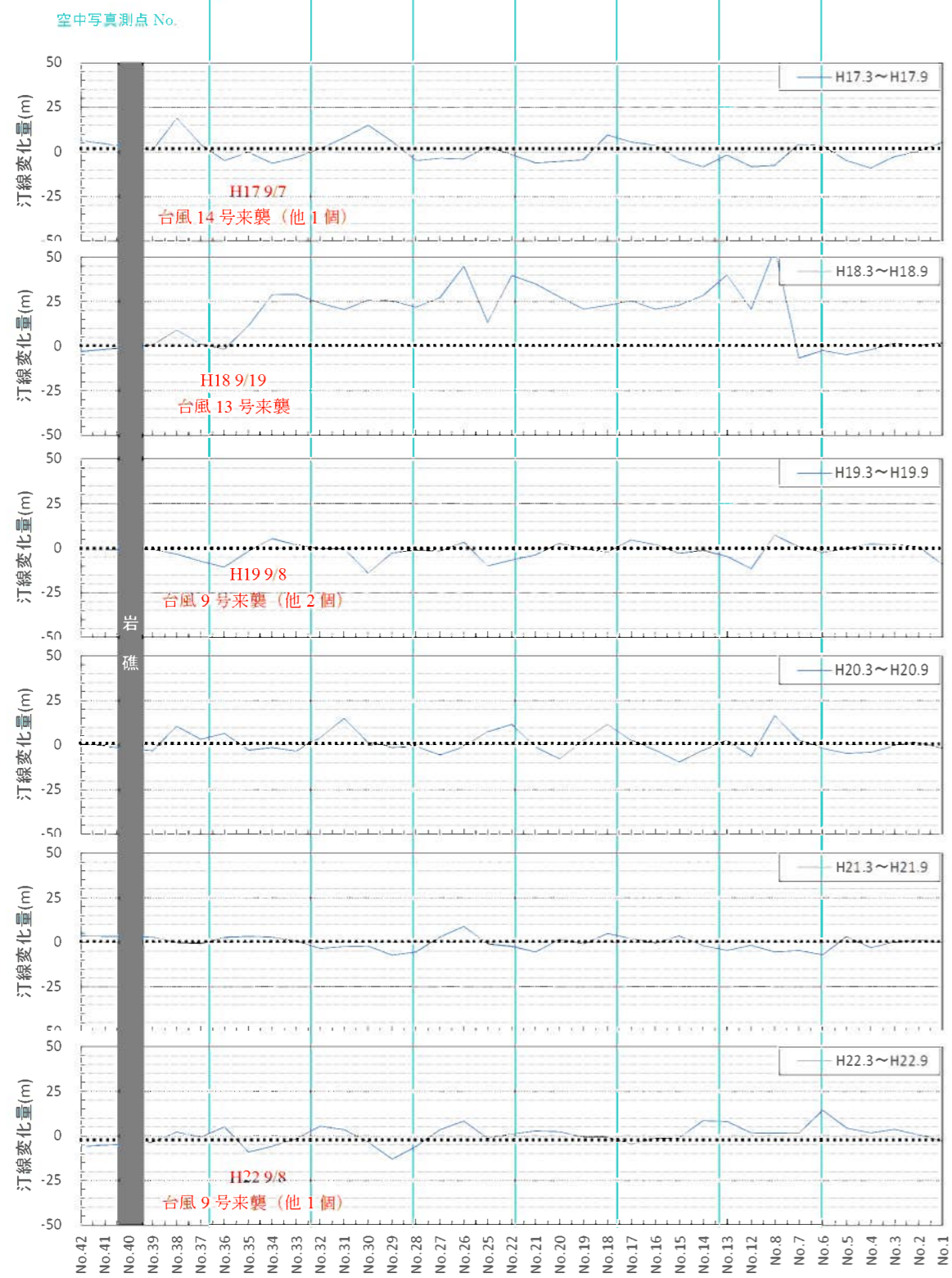


図 6.3.8 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図

短期的分析（夏→冬）

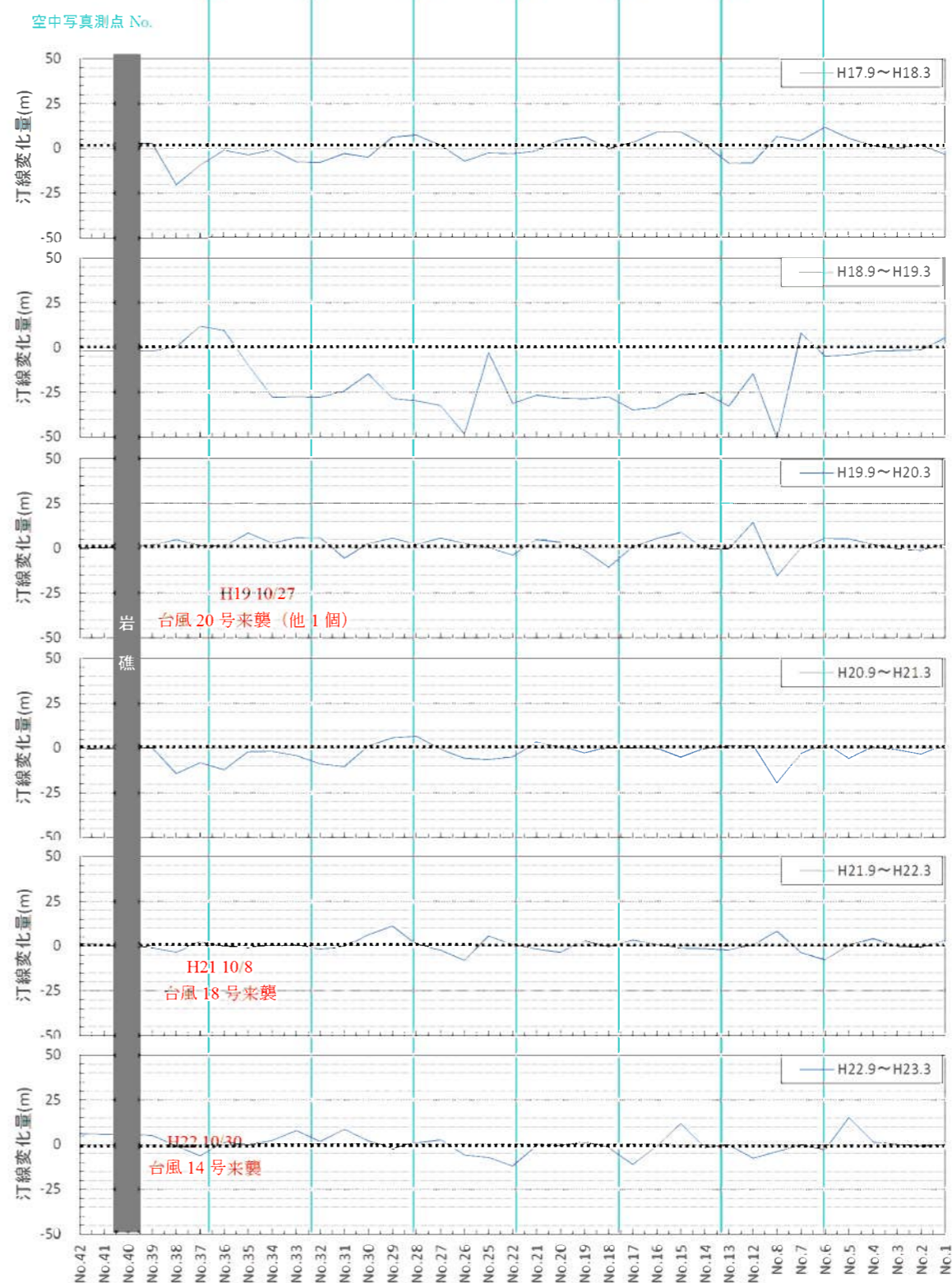


図 6.3.9 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図

短期的分析（冬→夏）

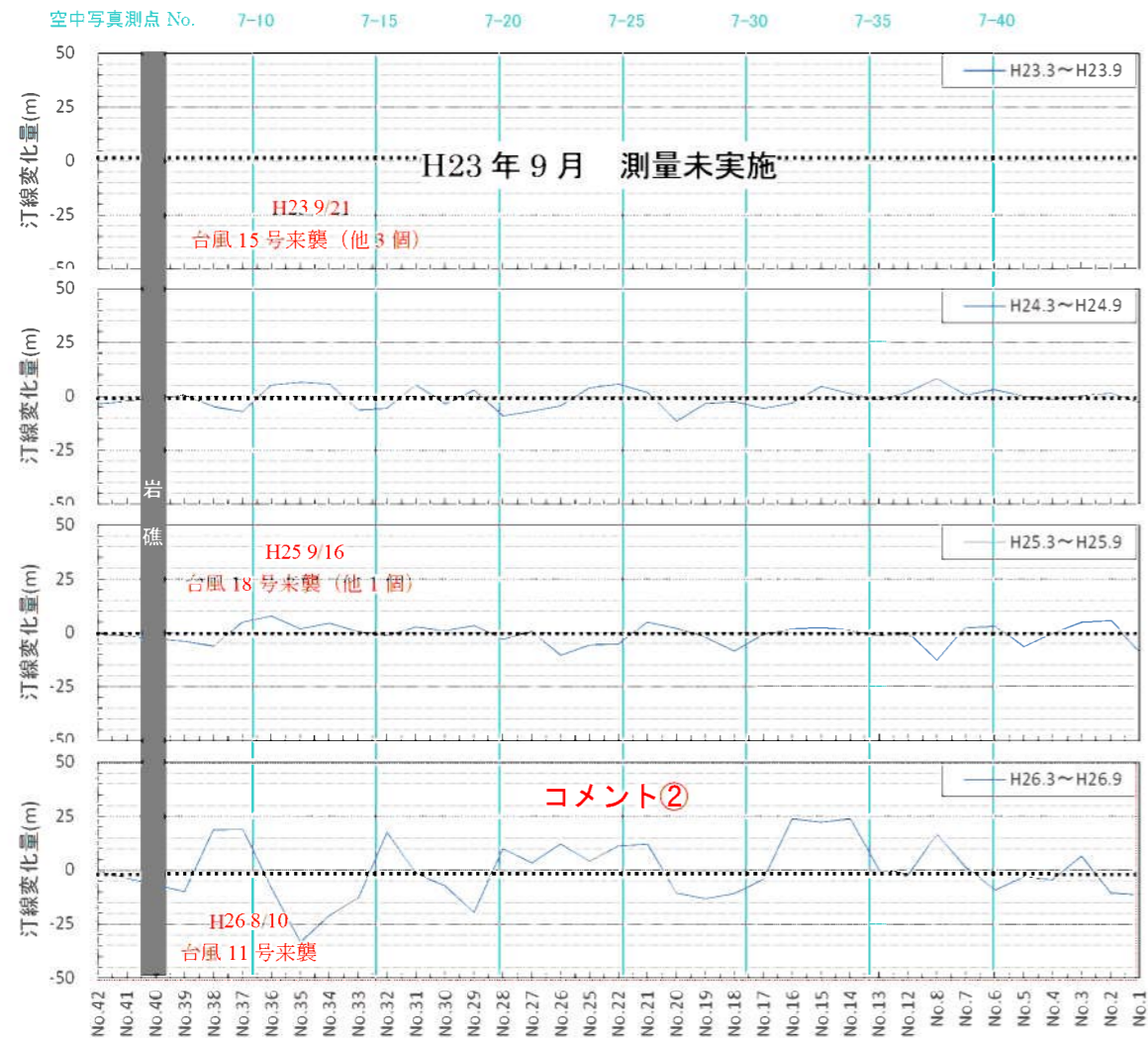


図 6.3.10 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図

短期的分析（夏→冬）

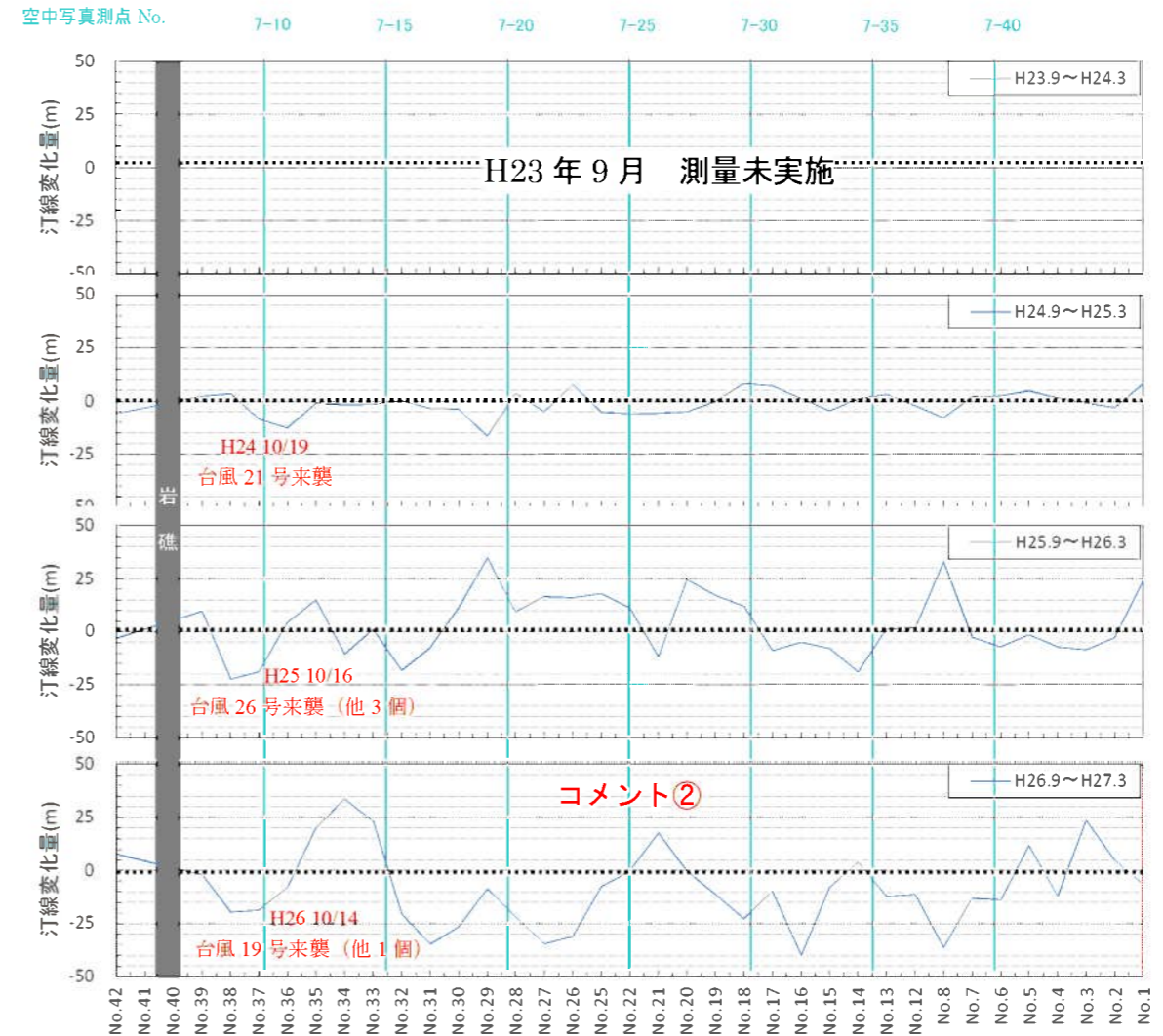


図 6.3.11 気高海岸（浜村地区）の近年の汀線変化状況図

6.3.2 浜幅分析

(1) 概要

これまで、現在の海浜の評価手法は、過去に観測、分析を始めた汀線が基準となっており、その基準に対して変動量を整理し、海浜の安定性を検証している。しかし、基準となっている過去の汀線が海浜として良好なものかどうか不明であった。そこで、昨年度、防護面については、打上げ高の検討、利用面については、海水浴利用の観点から検討した。その結果、鳥取県沿岸において目安となる浜幅は、防護面で25m、利用面で40mと設定した。

(2) 気高海岸における浜幅の検討

気高海岸における現況の汀線位置を、汀線位置の経年比較の基準となる年の汀線位置と併せて以下に示す。

- 平成27年3月の浜幅を見ると、No.31, No.27, No.18, No.19付近で侵食傾向が見られ、防護面で目安となる25mを下回っていた。

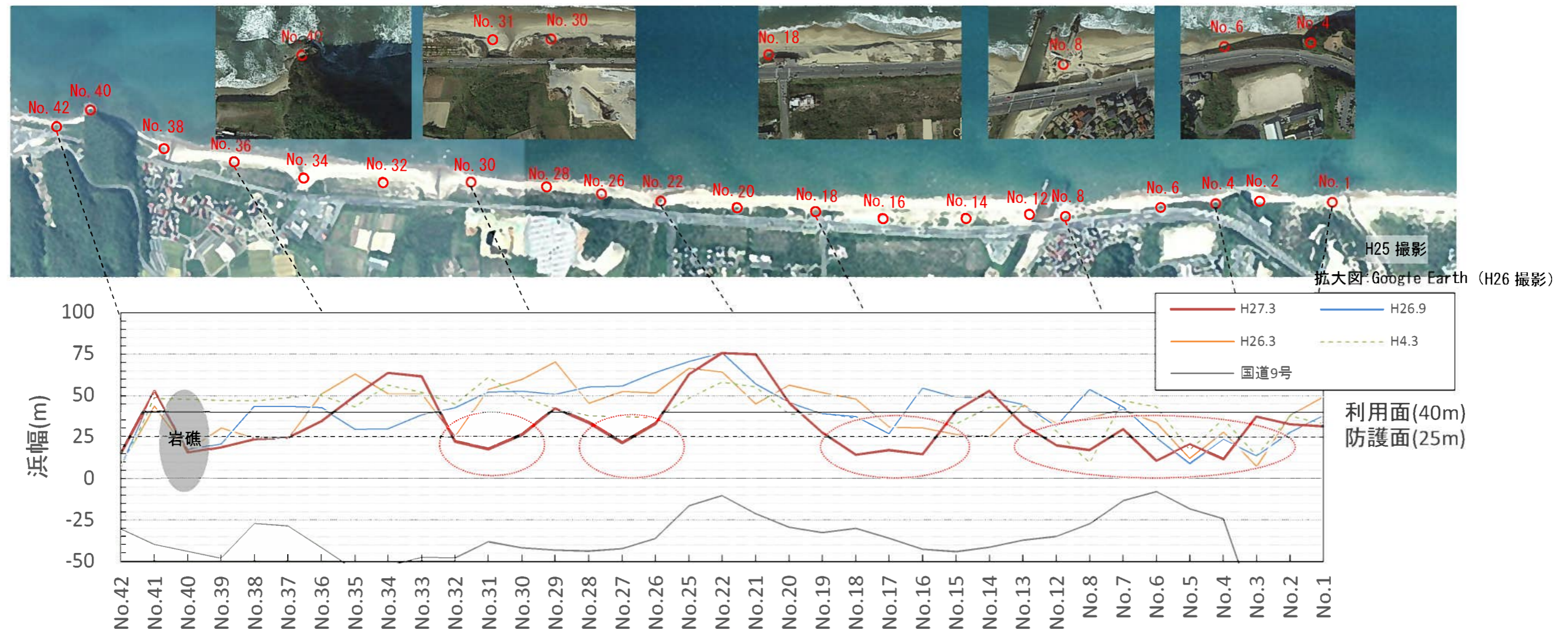


図 6.3.12 目安となる浜幅

6.4 問題点および今後の方針

- ・高波浪の来襲に伴い、汀線形状が大きく変化することが確認された。今後も測量などを継続的に実施し、地形変化を注視する必要がある。

6.5 測線毎の汀線経年変化（参考資料）



図 6.5.1 測量基点の位置（千代川左岸漂砂系）

表 6.5.1 千代川岸漂砂系における汀線変化とその要因

年代	H4.3	H11.3	H11.9	H12.3	H12.9	H13.3	H13.9	H14.3	H14.9	H15.3	H15.9	H16.3	H16.9	H17.3	H17.9	H18.3	H18.9	H19.3	H19.9	H20.3	H20.9	H21.3	H21.9	H22.3	H22.9	H23.3	H23.9	H24.3	H24.9	H25.3	H25.9	H26.3	H26.9	H27.3
汀線の経年変化																																		
備考	年度	H11		H13 H13		H15 H15		H16 H16		H17		H18 H18		H19 H19								H21 H21		H22 H22		H23 H23		H24		H25 H25		H26 H26		
	月日	9 / 15		8 / 21 9 / 10		6 / 1 9 / 22		8 / 31 10 / 20		9 / 7		9 / 19 7 / 15		10 / 27										10 / 8 8 / 12		10 / 30 5 / 30		9 / 21 10 / 19		10 / 16 8 / 10		10 / 14		
台風	台風16号来襲(他1個) 台風11号来襲 台風15号来襲 台風4号来襲(他2個) 台風15号来襲 台風16号来襲(他2個) 台風23号来襲(他4個) 台風14号来襲(他1個) 台風13号来襲 台風18号来襲 台風13号来襲 台風4号来襲 台風15号来襲(他3個) 台風18号来襲 台風4号来襲 台風14号来襲(他1個) 台風21号来襲 台風26号来襲(他5個) 台風11号来襲 台風19号来襲(他1個)																																	

7. 青谷海岸

7.1 概要

西端に明神崎，中央に丸山崎，東端に夏泊漁港を有する青谷海岸地区は，丸山崎を中心に東側と西側にポケットビーチを有する海岸域である．東側の海岸域には勝部川が流入している．

近年，夏泊漁港の防波堤の延伸に伴い，遮蔽域側への砂の移動が発生し，大量の土砂が夏泊漁港側へ移動している．

平成 26 年には，冬季風浪により浜崖が発生した．しかし，当該地区の海岸は『鳴き浜』であることから，侵食対策としての養浜については投入土砂の“質”観点から回復事業が進められていない状況にある．

7.2 対策実施状況

- ・海岸保全施設なし
- ・勝部川河口導流堤：昭和 40 年代



図 7.2.1 浜崖の状況（平成 27 年 1 月 4 日撮影）

7.3 評価分析

7.3.1 汀線変化分析

空中写真（鳥取県立博物館）により，青谷海岸の長期的な汀線変化状況を把握した．

【長期的な汀線変化傾向】

- ・昭和 44 年頃，勝部川流路変更に伴って導流堤が延伸されたことにより，河口に溜まっていた土砂が流され，河口右岸側を中心に東側は全体的に汀線の後退がみられた．
- ・平成 15 年以降は，西側で最大 20m 程度の前進，東側が最大 50m 程度の後退傾向となっている．全体的には平均 20m 程度の後退となっている．
- ・平成 26 年は西側で最大 20m 程度の後退，東側では最大 30m 程度の後退傾向となっている．



図 7.3.1 現地写真（平成 27 年 6 月 25 日撮影）



図 7.3.2 現地写真撮影地点

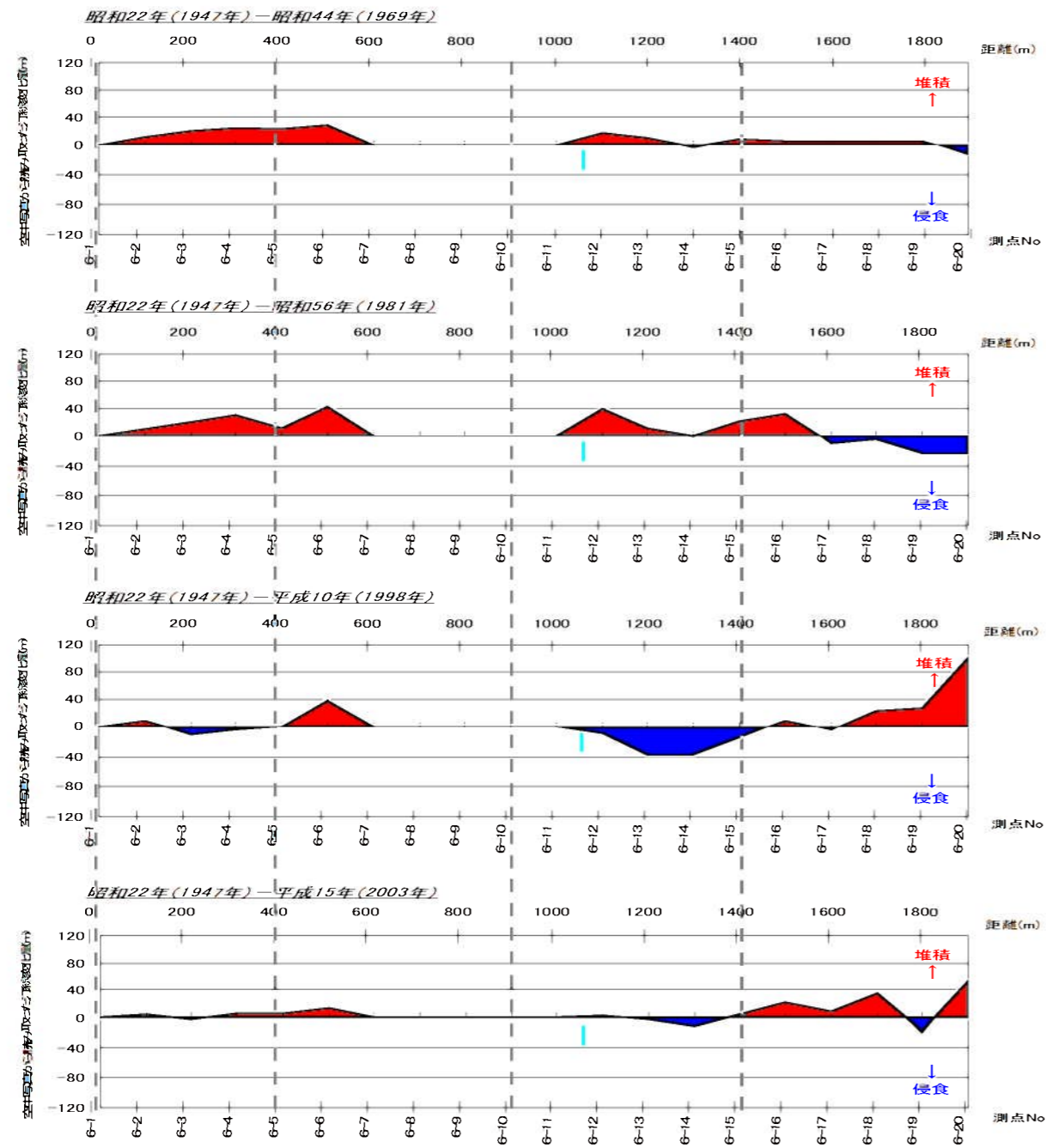


図 7.3.3 青谷海岸の長期的な汀線変化状況図(1/2)

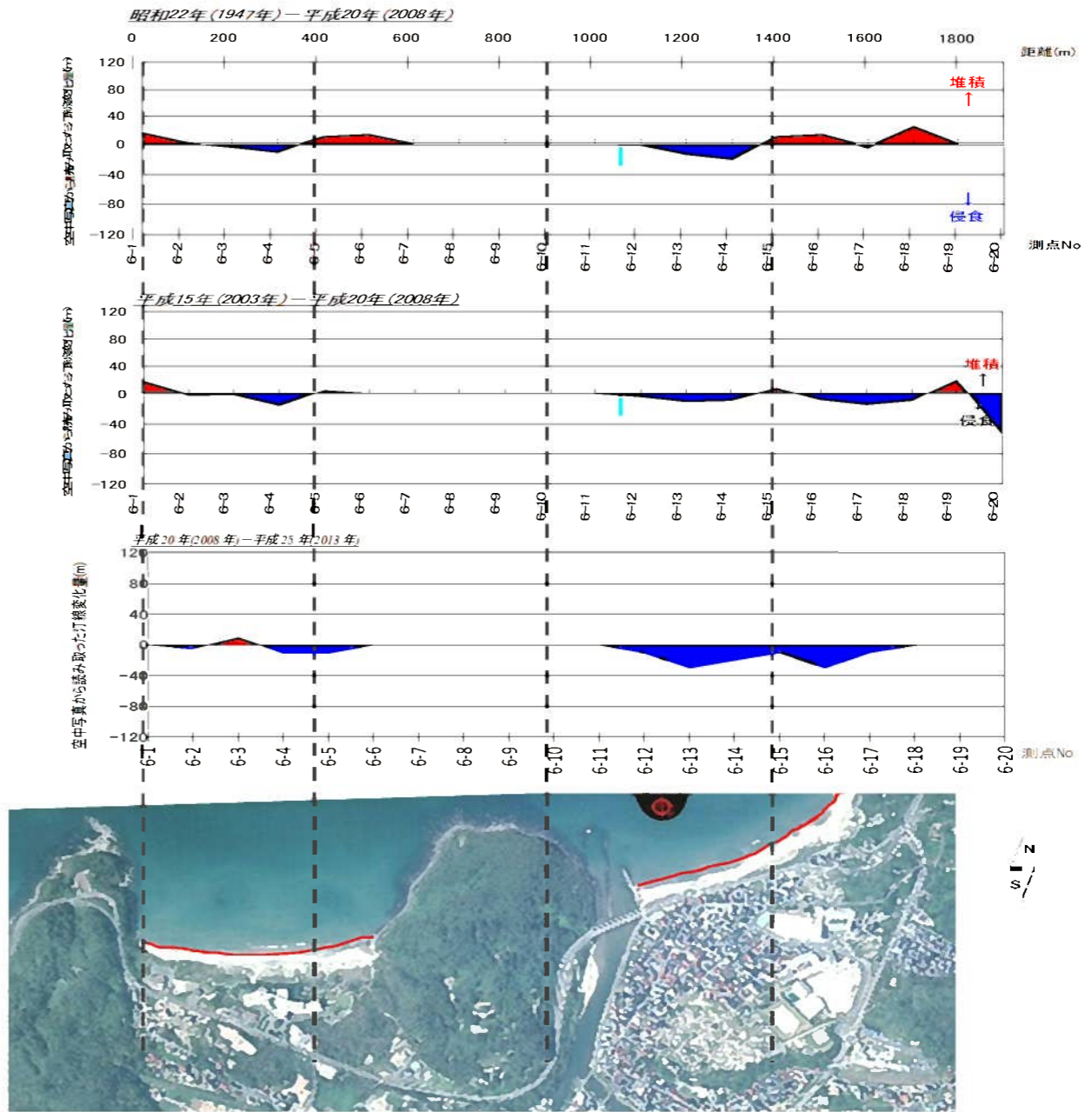


図 7.3.3 青谷海岸の長期的な汀線変化状況図(2/2)

表 7.3.1 空中写真による汀線変化の整理表：青谷海岸（1/2）

	空中写真	考察
昭和22年（1947）		ポケットビーチを形成し、安定している。
昭和44年（1969）		西側ポケットビーチでは明神崎東側で一部汀線が後退している。一方、丸山崎東側では前進している。
昭和56年（1981）		勝部川右岸側の2本の導流堤防間にあった土砂が東側ポケットビーチへ移動し、汀線が前進している。
平成10年（1998）		勝部川の流路変更に伴い、河口堆積土砂が流されてなくなり、東側ポケットビーチの一部が後退している。

表 7.3.2 空中写真による汀線変化の整理表：青谷海岸（2/2）

	空中写真	考察
平成15年（2003）		東側ポケットビーチは後退していた箇所が回復し、安定汀線を形成している。
平成20年（2008）		東側の海岸侵食が若干、進行傾向にある。
平成25年（2013）		東側、西側ともに海岸侵食が進行傾向にある。

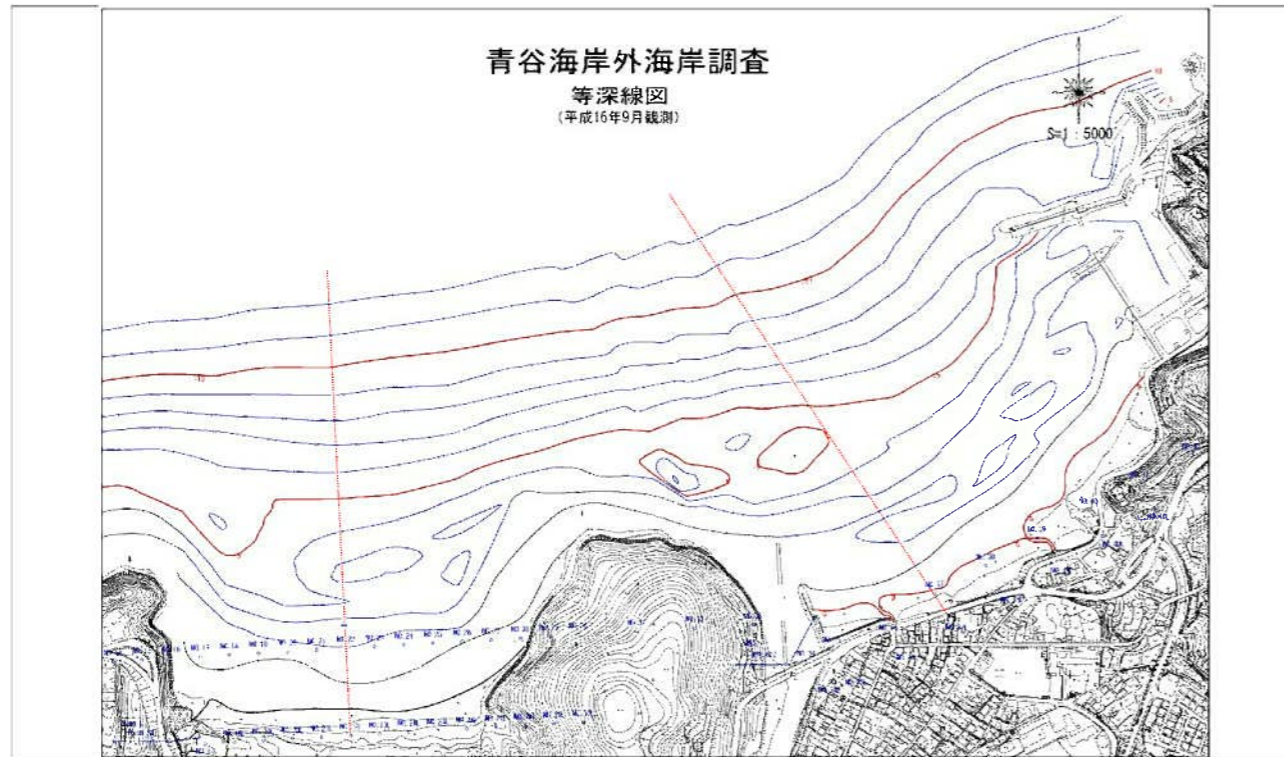


図 7.3.4 等深線図 (平成 16 年度)

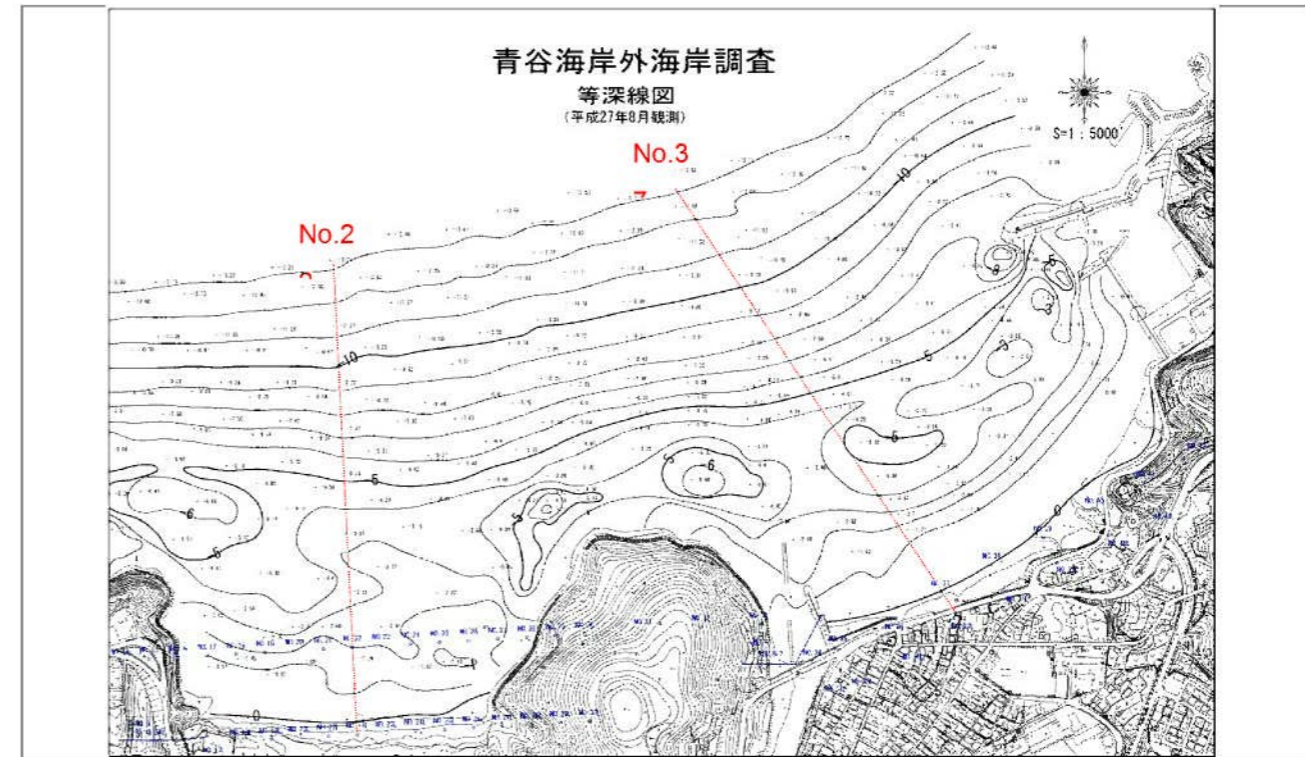


図 7.3.6 等深線図 (平成 27 年度)

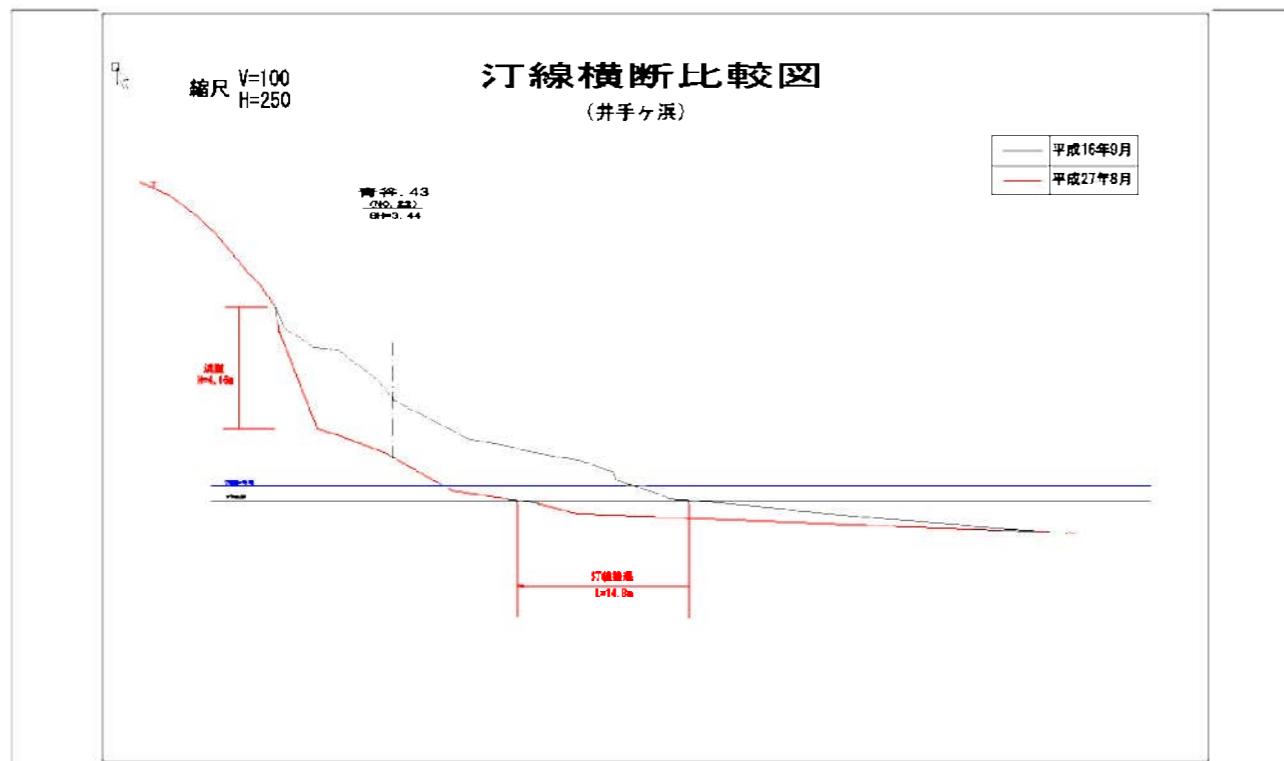


図 7.3.5 汀線横断比較図 (No.22)

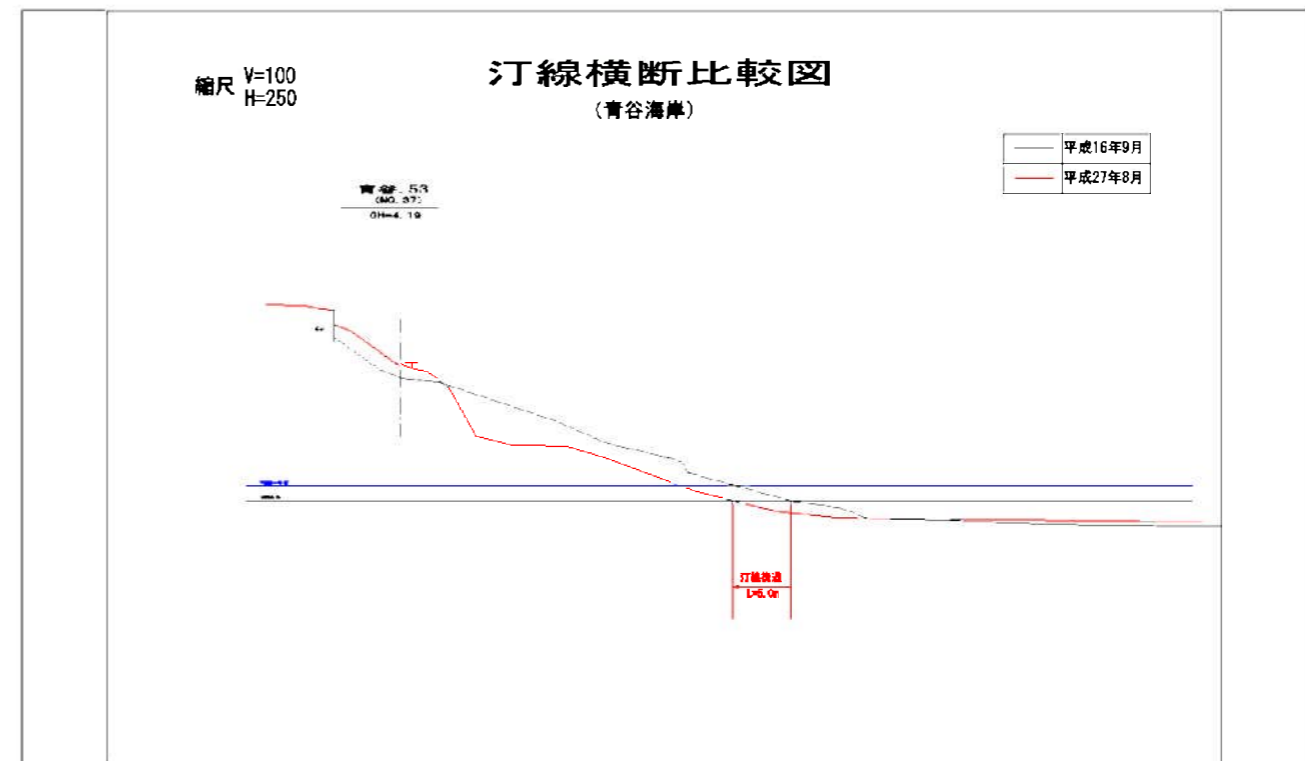


図 7.3.7 汀線横断比較図 (No.37)

7.4 問題点および今後の方針

- ・ 冬季風浪等に伴う高波浪により浜崖が確認された。今後も測量を継続的に実施し、地形変化状況の確認を行う必要がある。
- ・ 海浜から失われた土砂の移動場所や浜の回復の可能性について検討するとともに、状況に応じ陸上養浜等の対策が必要である。
- ・ 浜崖箇所への土砂搬入を実現するため、『鳴砂』海岸の土砂として適しているか、土質調査等を実施することも検討される。